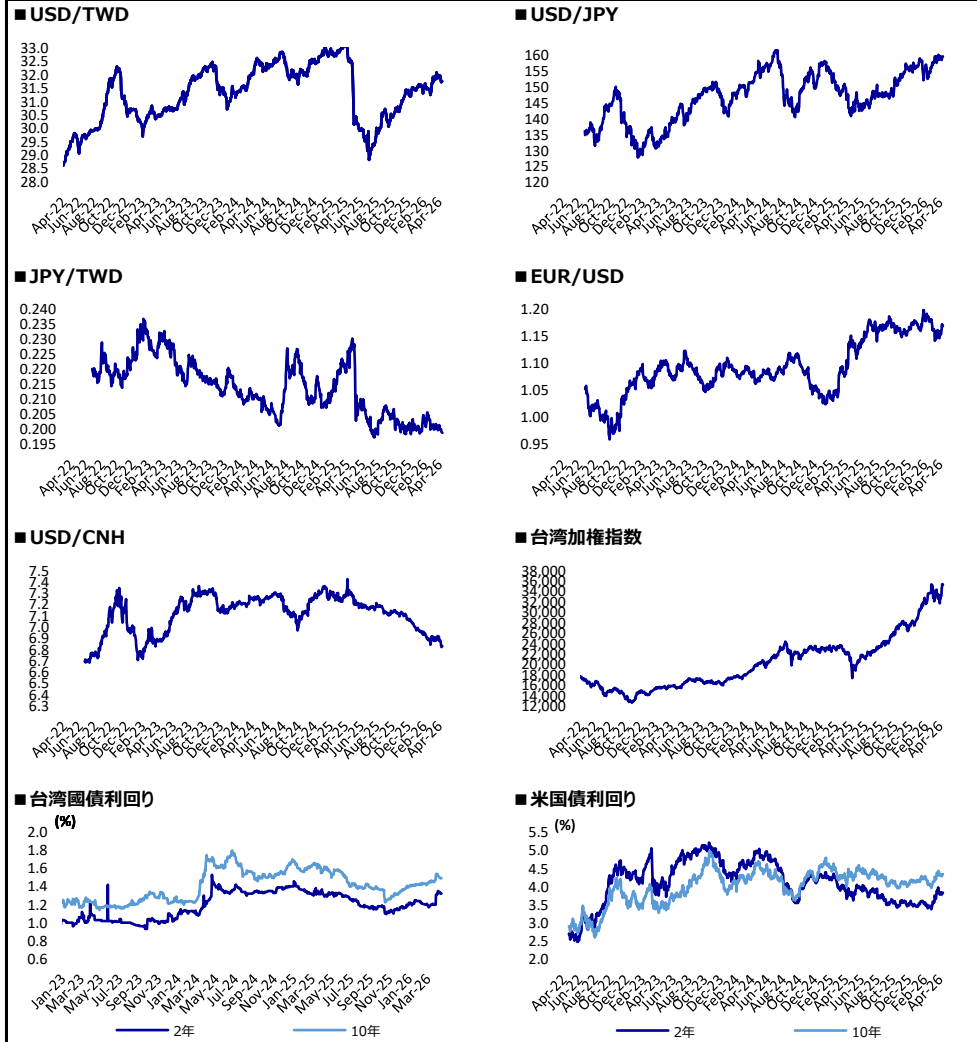


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のUSD/TWDは下落。週初6日、台湾の祝日により為替市場は休場。7日、USD/TWDは31.920でオープン。海外投資家に明確な動向が見られず、31.9後半で方向感に乏しい推移。午後には中東情勢の先行きが依然不透明な事が懸念されるか、週高値となる31.999まで上値を伸ばす。8日、米・イランが2週間の停戦で合意したとの報道を受け、楽観ムードの中で31.7後半まで下落。午後には一時31.7前半まで下落するも、その後は31.7後半に値を戻す。9日、慎重ムードの中で31.8ちよどを挟んで方向感がない推移が続く。午後には海外投資家による資金流入が加速したことで31.7半ばまで下落。10日、米とイランによるパキスタンでの和平協議や米3月CPIの発表を控え、慎重ムードが広がる中で31.7前半で動意乏しい推移が続き。最終的に31.726、前週比0.77%安でクローズ。先週、株式市場における海外投資家の買い越し額は1,884.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のUSD/JPYは下落。週初6日、USD/JPYは159.78でオープン。中東情勢の先行き不透明感を背景とした有事のドル買いがやや優勢となる中、新規材料に乏しく159円台半ばを中心にレンジ推移。7日、米金利上昇や原油高によるドル買いが進行し、159円台後半で底堅い展開となった。その後はホルムズ海峡の再開を巡る期限が意識されたほか、米国によるカーグ島攻撃が伝わると、海外時間に一時週高値の160.03円をつけるも、一巡後は159円台半ばまで下落。8日、早朝に米国・イランが2週間停戦することで合意したとの報道を受け、原油価格下落とともに有事のドル買いが巻き戻され、海外時間に週安値の157.89円まで急落するも、停戦協定への疑念が生じ158円台後半まで上昇。9日、イスラエルによるレバノン攻撃が停戦合意の対象外と伝わると、158円台後半を中心に堅調に推移。10日、経済指標の発表や週末の米国とイランによるパキスタンでの和平協議を控える中、原油価格の高止まりによりじり高となり、159円台前半で推移した。海外時間には米3月CPIが強い結果となったものの、市場の反応は限定的で、最終的に159.26、前週比0.19%安でクローズ。

■ USD/TWD 予想レンジ：31.500-32.000
今週のUSD/TWDはレンジ内でもみ合う展開を予想。週末に実施された米国、イラン間の停戦協議は合意に至らなかったものの、市場のリスクセンチメントは急速に悪化しては、加えて株式市場では海外投資家が買い越しに一転し、台湾ドルの下支え要因となる見通し。

■ USD/JPY 予想レンジ：157.00-161.00
今週のUSD/JPYはレンジ内でもみ合う展開を予想。週末に実施された米国、イラン間の停戦協議は合意に至らなかったことを受け、原油価格が反発する中、悲観ムードが広がっていき、加えて氷見野日銀副総裁が足許の消費者物価が物価安定目標に沿った2%に近い水準である認識を示し、利上げ期待の高まりから上昇幅は限定的となるのではないか。

今週の予定

4/13 (MON)	米3月中古住宅販売件数
4/14 (TUE)	米3月生産者物価指数、日本2月鉱工業生産
4/15 (WED)	米3月輸出/輸入物価指数・4月NY連銀製造業景気指数、台湾3月消費者物価指数
4/16 (THU)	Fedバーズブック、米3月鉱工業生産・4月フィラデルフィア連銀製造業景気指数
4/17 (FRI)	IMF世銀 春季会合

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。